

## サイエンス・アクセス (SA)

### SA講演会 (第1回) 生命倫理を考える

1年生のSSH学校設定科目「サイエンス・アクセス (SA)」では、郷土や科学技術がかかわる現代社会の問題について、グループで調査・研究を進めています。クラス毎に、「情報」「福祉」「医療」「エネルギー」「環境」「都市構造・都市計画」「防災」「流通経済」の8つのグループに分かれ、クラス発表会 (クロストーク) を行いました。

現在は、学年でのグループ別ポスターセッションに向け、クラス発表会での質問や意見をもとに内容を深めているところです。

また、SAの一環として、科学技術の周辺に存在する課題について学び考えるものとして「SA講演会」を行っています。11月18日に第1回目のSA講演会を岩手医科大学の遠藤寿一教授を講師に迎え実施しました。遠藤先生には、本校のSSH事業にかかわって、平成21年度から様々な生命倫理関連の講義をしていただいています。今年度の講演では、「安楽死の現在」のテーマで、安楽死についての基本的な説明 (安楽死の定義、対象、方法)、海外と日本の安楽死事情、安楽死はどのような場合に認められるかなど、動画も使ってわかりやすく講演していただきました。

講演後の質疑応答では、SAで「福祉」や「医療」のグループで安楽死を調べた者だけでなく、予想以上に多くの生徒から質問があり、それに対する遠藤先生の回答によって、さらに生命倫理についての考えが深まりました。



SA講演会「安楽死の現在」 岩手医科大学  
教養教育センター人間科学科哲学分野  
教授 遠藤 寿一 先生

#### 講演会の感想

- 人工呼吸器などの医療技術の進歩は、こんな問題も生み出したんだなと思った。「普通なら死んでいるのに、医療によって生かされている」という状況はとても悲しいことだと思う。しかし、進歩した医療を使用しないというのは、医者や患者の気持ちなどから考えると難しいと思う。安楽死は将来的に認められると思うが、簡単に解決させないで、もっと議論するべきだ。自分がALSだったらどう考えるか、ということを考えてさせられた。(1年男)
- 人の命、特に死について考えてみて、とてつもなく難しく、答えはないのではないかと思います。そして、今までの人生の中でこのことについて考えてこなかったと気づき、驚きました。自分の周りでも病気で亡くなった方はたくさんいて、その人達がどう思って病気で闘い亡くなっていったかと思いました。安楽死ということよりも、人の死について他人が決めることが難しい問題だと思いました。何をどうしたら解決できる、ということでもないかも知れませんが自分なりに考えたいです。(1年男)
- ビデオを観て涙が出たし、残される家族の姿が悲しかった。今は精一杯生きているがいつかは病で意志を伝えられなくなった時に、呼吸器を外して欲しいと思うのは共感した。家族としては死んで欲しくないし、本人も死にたいと思ったり生きたいと思うこともあって、とても難しい問題だと思う。刑法などで違法という前に、実際にそんな立場にいる人達に話を聞いたりして欲しいと思った。(1年女)

